

体験学習をどうぞ 028

2023. 1. 24 (火)

【中学 1 年数学】

方程式

生徒数の増減問題

きょうの体験問題です。

ある学校の昨年度の生徒数は、男女あわせて650人でした。本年度は昨年度に比べて男子は2%減り、女子は7%増えたので、全体として14人増えました。
本年度の男子生徒数を求めなさい。

「増し、減」に関する問題は、生徒数の増減と商品売買の2種類の問題を扱います。
最初は、生徒数の増減問題です。

割合の問題では「もとにする量」を x とする

方程式の基本は、求める量を x とおきますが、
割合の問題では、必ずもとにする量を x と置かなければなりません。

例えば、「本年度の生徒数を求めなさい」という問題であっても、
「本年度は昨年度に比べて男子は（昨年度の）2%減り…」とあるような場合は、
昨年度の男子の生徒数を x 人と置きます。
昨年度の生徒数をもとにして、本年度の生徒数を表さなければならないからです。

もう1つの量を x の式で表す

このような問題では、生徒数の合計が与えられるので、
たとえば、生徒数が650人と与えられたら、女子の生徒数は $(650 - x)$ 人と表します。

「もとにする量」の見つけ方

もとにする量は、割合を表す直前に書いてあります。

「～の2%」と書いてあるときは、2%が割合をあらわすので、「～」の部分がもとにする量になります。

もとにする量が省略されているときは、補って見つけます。

「一般的な解き方」を覚えよう

以上が、割合の問題を解くときの一般的な考え方です。

一般的というのは、この考えに沿って解くと、確実に正答できるという考え方のことです。

■演習問題は、数専ゼミ・山形・東原教室で個人指導を受けることができます。



中1 数学・方程式 No.36

5 割合を使った増減問題（その4）

体験学習

■ 生徒数の増減問題 ■

■「中1 数学・方程式」★学習計画書★

([ブラウザのバック矢印](#)でこの文書に戻ることができます。)

方程式に強くなる数学専門指導の数専ゼミ

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: (023)633-1086 / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp